

学校教育目標	豊かな人間性をそなえ主体的で確かな実践力をもつ児童の育成
《本年度の重点目標》	
《重点目標1》	児童に勉強をしっかりと教え、実態に応じた学力を付ける。
《重点目標2》	児童の運動量を確保し、体力をつける。
《重点目標3》	規範意識を育て、よりよい人間関係を育成し、優しく自己有用感の高い児童を育てる。

◆記入にあたっての留意事項

- 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。
  - ①学力向上に関する取組
  - ②体力向上に関する取組
  - ③心の育ちに関する取組
  - ④いじめ問題解決に関する取組
  - ⑤特別支援教育推進に関する取組
  - ⑥あいさつ日本一に関する取組
- 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取ることを。
- 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少して目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
関学 する 向上 取組	【授業改善①】 ◇「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」について、肯定的な回答をした児童の増加。	○各担任が、授業改善シートを確認し、週に1単位時間は必ずそれを活用した自己評価を行い、「めあて」と「まとめ・振り返り」の整合を図ることで授業力の向上を図る。 ○各担任が「そろえる」ことを意識するとともに分かる授業づくりの5つのポイント」の徹底を図り、分かりやすい板書や話し合いの時間を意識し、「めあて」や「まとめ」などのプレートやスケジューラーの活用を行う。	B	【授業改善①】 ○各担任が授業づくりの5つのポイントを意識して日々の授業づくりを行うようになった。 ○授業改善シートを基に自分の授業を見直す視点が育ってきた。 ○評価項目について肯定的な回答をした児童が増加している。 ◆5つのポイントについての定着が見られる場面が増えたが児童主体の活動となるようさらに意識していく必要がある。
	【授業改善②】 ◇「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」について肯定的な回答をする児童の増加。	○管理職等が毎日校内巡視を行い授業見学をして教員の指導力や学級の様子を把握し、授業改善等につながる指導や助言を行う。また、学期末に児童アンケートを実施し、実態を把握する。 ○一単位時間の授業の中で、児童が自分の意見を語るができるようにすること、また、それを受容することができる学級の雰囲気醸成し、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。	B	【授業改善②】 ○一単位時間の中でペアやグループ、全体など話し合う場の設定を工夫した。取組の中で自分の考えを出すことよき気づく児童が増えた。 ○評価項目について肯定的な回答をした児童の割合が増えた。 ◆学習中に話し合うことよきや活動の工夫について手だてを講じていく必要がある。
	【補充学習】 ◇「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいませんか。」について、肯定的な回答をした児童が増加。	○各担任は、週2回の放課後学習において、基礎的・基本的な学習事項の定着を図るとともに、活用・応用力の育成に向け、学力定着サポートシステムの問題を活用する。	B	【補充学習】 ○評価項目について肯定的な回答をした児童の割合は80%を超える程度であり大きな変化はない。 ○基礎的・基本的な学習事項の定着のため毎週実施した放課後教室は目標の回数をほぼ達成した。 ○学力サポートシステムの問題に全校で取り組むことができた。 ◆学力サポートシステムの活用を図り、児童の実態に応じた補充学習の工夫をさらに行う必要がある。
関体 する 向上 取組	【授業改善】 「体育の授業は楽しいですか」について、肯定的な回答をした児童の増加	○体育授業の準備運動では、体力向上プログラムを活用し、ジャンプアップ運動などを必ず行うようにする。 ○汗を書く体育授業を実践し、体を動かす楽しさや喜びが実感できるよう授業改善をより一層進め、児童一人一人に達成感が得られる授業展開の工夫を行う。	B	【授業改善】 ○評価項目については、学年での差が大きいことがわかった。運動習慣等との関連がある。 ○体力向上プログラムの活用を行い、成果の見られる学年もある。体育館等での授業で活用できる場の設定を行った。 ◆伝達研修等を確実にし、体育の授業改善に向けて研修を行っていく必要がある。
	【運動習慣】 ◇一校一取組として、年間を通して全校で取り組んだ回数の割合[週一回以上]	○新体力テストの結果より課題となった「持久力」や「瞬発力」の育成を目指して、体力向上担当(体育主任・教務主任)を中心に、検討を行い、児童の実態に応じた一校一取組について検討・決定する。 ○カードなどを活用し、5、6年生において、体力テストを6月と7月の2回実施する。	C	【運動習慣】 ○縦割り班の活動を週1回取り入れた。なわとびや球技など多様な活動に学校全体で取り組むことができた。 ○体力テストを全学年で実施した。 ◆遊びながら体力向上につながる場の設定を校内に増やす。
	【家庭学習】 ◇「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、1時間以上していると回答した児童の増加	○各担任が宿題の出し方の共通理解を図るとともに、学習時間の目安や、自主学習の内容を記した「青山小学校家庭学習のススメ」を家庭へ配布し、中学年以上を中心に自主学習に取り組む。 ○各担任及び管理職等は、学校全体の取組として、よいノートやよい取組の例を児童に紹介する。	B	【家庭学習】 ○宿題を必ず行う児童の割合は90%を超えており、ほとんどの児童が課題には取り組んでいる。自主学習にも全学年で取り組むことができた。 ○各学級や校内でよい取組等の紹介を行うことができた。 ◆1時間以上取り組む児童の割合は多い方ではない。学校全体で保護者への啓発も含めて家庭学習の習慣を付ける取組を工夫していく必要がある。
関心 する 育 取組	【授業改善①(道徳)】 ◇「将来の夢や目標をもちますか」について、肯定的な回答をした児童の増加 ◇「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について肯定的な回答をした児童の増加	○「特別の教科 道徳」の時間において、内容項目「希望と勇氣、努力と強い意志」に関する教材を学期ごとに行い、重点的に取り組む。また、生活科や総合的な学習の時間において、地域人材を生かした交流活動を積極的に進める。	B	【授業改善①(道徳)】 ○道徳主任による伝達講習や公開授業研究を行い、全員で研修を深めることができた。 ○地域人材等を生かした交流活動を各学年で行うことができた。 ◆学習の足跡の残し方や評価について工夫していく必要がある。
	【いじめ防止】 ◇いじめられた側の立場に立っていじめを積極的に認知するとともに、いじめ防止に取り組む。	○いじめを許さない学級をつくるため、「特別の教科 道徳」の時間において、内容項目「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切・思いやり」「友情・信頼」「公正、公平、社会正義」を重点的に取り組む。 ○特別支援教育の視点で児童の様子や変化を見取り、児童のニーズに応じた指導を行う。 ○毎月、「心のアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努める。	B	【いじめ防止】 ○心のアンケートの毎月実施、SCとの5年生面談等で児童の様子を把握することに努めた。 ○問題事象の早期発見に努め、家庭との連携をしながら解決することができた。 ◆今後もアンテナを高くし、いじめの早期発見、解決に全力で取り組む。
	【授業改善②(特別活動)】 ◇「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした児童の増加	○学級活動の計画的な実施をはじめ、特別活動を通してよりよい人間関係の育成を図る。「北九州子どもつながりプログラム」を系統的に活用し、児童同士の人間関係を深める。 ○あいさつの指導とともに、各学級の学級活動や帰りの会で「友達のよいところみつつけ」等、互いを認めあう取組を行う。	B	【授業改善②(特別活動)】 ○学級活動の計画的な実践に努めた。 ○本校の主題として取り組み、よりよい人間関係の育成に資する研究を全校で取り組むことができた。 ○日常的にあいさつの指導を行い、自他のよさを見つけることや自己肯定感の育成に努めた。 ◆校内でのあいさつは達成しているが地域の方への実践が十分でない。今後とも指導や声掛けを行っていく。
学 校 組 織 と 研 修 に	【授業力向上】 ◇「授業改善に向けて日々の授業改善に取り組んだ」について、肯定的な回答をした教員の増加	○主題研究や若年研修を通して研究授業を行う。ワークショップ型の協議を今年度も行う。 ○学力向上推進教員によるモデル授業参観などを通して、実践的な研修を行う。 ○指導主事要請を行い、個別の指導計画についての理解を深めるとともに、特別支援教育の充実を図る。 ○会議の効率化、マークシート読み取りソフトの活用など業務改善の方策を実施する。 ○教員はワークライフバランスを心がけ、見直しをもった授業準備等を行うようにする。	B	【授業力向上】 ○主題研修等で全学級が公開授業等を行い、ワークショップ型の研修で考えを交流し、実践に生かすことができた。 ○学力向上推進教員と連携し、どの学級も指導を受け国語の授業づくりや指導方法について学ぶことができた。 ○特別支援教育において指導主事を要請しての研修やコーディネーターの活用により個別の指導計画についての理解を深め一人一人のニーズにあった教育を実践することに努めた。 ◆来年度からの選択型研修について一人一人のキャリアステージに応じた研修ができるようにする。
	【業務改善】 ◇専科指導の実施(5、6年理科、図画工作)による、担任の授業への負担軽減			【業務改善】 ○5、6年の理科と図画工作について専科指導を行うことができた。 ○放課後の時間を有効に使うことを心がけ、会議の効率化を図った。マークシートの読み取りソフト等の導入により時間の効率化を図ることができた。 ◆専科指導や持ち合い授業など実態に応じた業務改善の取組を実践する。 ◆業務改善や、効率化について全職員で意見交換を行い、実践可能な内容について取り組んでいく。